



生徒のWillから始まる、成果不問の探究

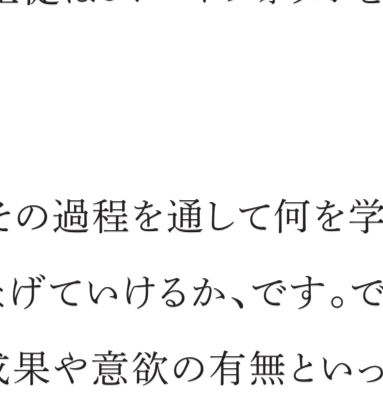
～長崎県・長崎南山高等学校～

取材・文／笹原 風花

長崎南山高等学校では、新課程に先駆けて2019年度より総合的な探究の時間を開講し、成果よりもプロセスを重視した探究学習を行ってきた。具体的な取り組みや伴走の心得について、進路部キャリア探究課長・総合探究委員会委員長の徳田憲一郎先生に伺った。

探究で大事なものは、成果ではなくプロセス

化学の教員である徳田先生は、生徒の主体性を伸ばすための取り組みとして、化学の授業の中で質問づくりワークやリフレクションシートを活用した振り返りを実践してきた。理論を学び実践を重ねるなかで探究学習に興味をもち、学校を挙げて探究に取り組みたいと、情報や事例を集めて学校改革を担う委員会に提案。プロジェクトチームを立ち上げ、1年間の計画・準備期間を経て、2019年度から総合的な探究の時間を始動させた。



当初から重視してきたのが、「プロセスから学ぶ」という姿勢だ。成果は問わず、探究の発表会はすべて「プロセス発表会」にすることを明言。生徒はeポートフォリオを使って学びのプロセスを記録している。

「探究で大事なものは、どのような成果を出したかではなく、その過程を通して何を学び、どのような力を身につけたか、そして、その後どうつなげていけるか、です。ですから評価においても、うまくいった・いかなかったという成果や意欲の有無といった指標ではなく、何をどうしたらどうなった、どう変わった、という学びのプロセスを見たいと考えてきました。プロセスを振り返ることで、自分自身を俯瞰するメタ認知力をつけてほしいという思いもあります」

Willを深掘りする自己探究が始点

総合的な探究の時間は、各学年とも週1時間（グローバルコースは2024年度より時間数増）。1年次前半には、課題設定の前段階として、自分自身の「Will(意志)」を深掘りする。企業間での社員のレンタル移籍事業を手掛ける企業と連携して高校生向けに開発した「Will発掘ワークショップ」を通して、これから生活や仕事をするなかでどうありたいかというWillを掘り下げていく。さらに後半には、慶應義塾大学の研究員を講師に迎え、論理的に文章を書く手法や探究の組み立て方について学ぶ。

「自分はこうありたい、こういう世界になってほしい、そのためには自分はこうやって社会に関わりたい…とWillを深掘りする自己探究から始めるのが、探究の課題設定のセオリーだと考えています。一方、Willはあくまでも仮で、カチッとしたものでなくても途中で変わってもいいと、生徒には伝えています」

2年次には、認定NPO法人カタバが提供するマイプロジェクト（マイプロ）の教材などを使い、自分のWillを叶えるためにはどうしたらいいかという視点から、各自がマイテーマを設定。クラスを横断して分野ごとに「文化」「環境」「数理科学」「国際」「地域」「健康医療」の6つのゼミに分かれ、その後はゼミごとの活動となる。ゼミは各学年の担任・副担任が担当。最初に、どういう未来を描きたいのか、ゼミとしてどうありたいかといったことを語り合い深めたいと、生徒は思い思いに探究活動に励む。個人で取り組む生徒もいればグループで取り組む生徒もあり、進め方は生徒の自主性に任せている。

2年次の12月には、中間プロセス発表会を実施。課題設定をするまでの紆余曲折や情報収集をした際の失敗談から、「マイテーマについて調べた結果、仮説・検証はできないという結論に至ったので、テーマを変えることにした」という報告まで、それぞれが探究のプロセスを発表する。「探究は発表して終わりではない」と徳田先生が言うように、中間発表会では、次のアクション決めにより多くの時間を割いている。3年次には、それぞれのマイテーマをさらに深め、7月に最終発表会を行うが、ここでも成果ではなくプロセス重視のあり方は変わらない。

人として対等に向き合い、問いかける

生徒に伴走するにあたっては、「生徒と教員ではなく、人と人として対等に向き合うようにしている」と徳田先生。大事しているのが「問い」だ。

「読書も勉強も趣味も、内から湧き上がる問いから始まる」と深まっていくことに気づいてから、生徒と向き合うときにも問いを重視するようになりました。教員として指導や助言をするのではなく、一人の人間として、その子自身やその子のマイテーマに関心をもち、これってどういうことなの、なんでこうなるの、と、気になったことを問いかけて引き出すようにしています。とはいえ、慣れるまではこの問いかけが難しいですよ。ね。他の先生たちのヒントになればと、生徒の70のマイテーマに対してそれぞれどうい問いかけが想定されるかを書き出したこともあります」(下図)

■長崎南山高等学校2年 総合探究 課題と問いかけ例

設定した課題	評価・声かけ例
数理科学 輸入に頼ることなく安定した魚を採り出すには 海の環境汚染について 人間が住み続けられる量を見つげるためには 地球温暖化はなぜ止められないのか	魚を売るとの値段はどちらに視点を置いて調べたのか? 環境汚染の中で特に注目していることは?環境汚染について調べて、何を解決したいのか? 人間が住み続けられる量を見つげるためには?注目するポイントと懸念点の両方について注目する? 地球温暖化は地球の気候にどのような影響を及ぼすのか、産業革命以降に促進されている。これを止められない理由を説明する?それとどうやって解決できるのか?
外来種によって絶滅危惧種まで減った外来種を救済するには コロナと以外生物との関わり 高齢者がいなくなる世界とは AIが活躍している世界とは AIのデメリットをうまく活かすには スマホがいつでも安全に使えるようにするには SNSの実用性について 学生のスマホの使用について 土砂崩れが起こらないようにするには 毛織物も安全・安心に使えるようにする家の構造	外来種を救済する方法を調べる?それと、外来種の駆除をするの?それと外来種の保護をするの? 人以外の生物との関わりは、コロナウイルスに感染してしまった動物について調べたいのか? 高齢者がいなくなる世界とは?高齢者がいなくなる世界とは?高齢者がいなくなる世界とは?高齢者がいなくなる世界とは? AIが活躍している世界とは?AIが活躍している世界とは?AIが活躍している世界とは?AIが活躍している世界とは? 絶滅危惧種を救済するには?絶滅危惧種を救済するには?絶滅危惧種を救済するには?絶滅危惧種を救済するには? AIのデメリットをうまく活かすには?AIのデメリットをうまく活かすには?AIのデメリットをうまく活かすには?AIのデメリットをうまく活かすには? スマホは今、安全でない?どうしたら安全になるか?安全でない?どうしたら安全になるか?安全でない?どうしたら安全になるか? SNSの実用性とは?SNSの実用性とは?SNSの実用性とは?SNSの実用性とは? スマホの使用について、何を解明したい?どこに課題を感じている? どこを?AIの中に?土砂崩れが起こらないように、何を提案する? 毛織物も安全・安心に使えるようにする家の構造 毛織物も安全・安心に使えるようにする家の構造
環境ゼミ 捨てられている食べ物を再利用するには ネット利用の現状と理想とこれからの いじめるか/いじめられるか 海の豊かさを守るには 地域の人の地球温暖化への認知度を高める	食べ物の再利用に関しては?廃棄物も解決する必要があるけど、再利用をどのように提案する? ネット利用の現状と理想とこれからの いじめるか/いじめられるか 海の豊かさを守るには 地域の人の地球温暖化への認知度を高める
国際ゼミ 競争・先を争う方法ではなく対話で解決するには ①対話の海外の人を話すためには すべての国者が十分な教育を受けられるためには 言語が異なる文化を克服するには 言語が異なる文化を克服するには ジェンダー平等を促すためには 1/4の人口が1人あたり1000ドル未満で暮らす国は 食糧を調達するために自分たちでできることは何か アフリカの子供に金銭が1ランスの取れた食事を提供するには	対話で解決する方法を考えたとき、対話の内容を検討するということとそれと対話の方法 ①対話の海外の人を話すためには すべての国者が十分な教育を受けられるためには 言語が異なる文化を克服するには 言語が異なる文化を克服するには ジェンダー平等を促すためには 1/4の人口が1人あたり1000ドル未満で暮らす国は 食糧を調達するために自分たちでできることは何か アフリカの子供に金銭が1ランスの取れた食事を提供するには
文化ゼミ 収入を増加させ、8050問題を解決するには 虫を愛用し広げるには あかり贈られる文化を知りたい 誰もが自由に差別なく平等に暮らせる世界にするには ユニバーサルデザインの特長を数値で表す 日本の文化を伝えるには 文化は自然条件 安全な条件 SNSを作るには 祭りに関して	8050問題は誰の収入を増加させる?7歳?高齢者の引きこもり(在宅介護問題)を解決するは収入の問題か? 虫を愛用し広げるには あかり贈られる文化を知りたい 誰もが自由に差別なく平等に暮らせる世界にするには ユニバーサルデザインの特長を数値で表す 日本の文化を伝えるには 文化は自然条件 安全な条件 SNSを作るには 祭りに関して
健康医療ゼミ 薬についての補助 薬を飲む方法を多くの人に知ってもらうには 疲労回復ができる睡眠とは 人を助けるために何が重要か 早く復帰し、苦痛を感じないリハビリ 誰でもできるスポーツを作る 高齢者の終活より良いものにする施設を作る 高齢者に喜ばし人助けしたい 強い体のスポーツ選手を作ろう	薬を買うときの補助金の話?薬には種類があるけど、どの種類の薬を考えている? 薬を飲む方法を多くの人に知ってもらうには 疲労回復ができる睡眠とは 人を助けるために何が重要か 早く復帰し、苦痛を感じないリハビリ 誰でもできるスポーツを作る 高齢者の終活より良いものにする施設を作る 高齢者に喜ばし人助けしたい 強い体のスポーツ選手を作ろう

一方、タイミングをみて生徒に助言をすることもあった。そのときに意識しているのが、「つなぐこと」と言う。

「私たち教員は答えをもっているわけではないので、こういう本を読んでみたらどう? こういうサイトで調べてみたらどう? こんな人に相談してみたらどう?…と、何かとつなぐようにしています。例えば、食糧難について調べ始めた生徒にJICA長崎の方を紹介したところ、実際に話を聞きに行き、そこからはどんどん自走して、結果的にアクションプランコンテストで九州1位になったんです。もともと理学療法士を目指していた生徒でしたが、食糧問題についてさらに学びたいと、鳥取大学の農学部に進学しました」

総合的な探究の時間が始まってから5年が経ち、教員間にも「プロセス重視」「問いを大事にした伴走」というあり方が浸透してきた。成果を求められずとも、自らマイプロに挑戦する生徒や探究を進路につなげる生徒も多数出てきている。一方、「満足はしていない」と徳田先生。「こうすればうまくいくという絶対的な手法はない終わりのない戦いだ、まだまだやれることがある。探究っておもしろいとワクワクする生徒を一人でも増やすために、今後も伴走の仕方を模索していきたい」と締め括った。

生徒インタビュー

Interview

先生の言葉に背中を押され、一歩踏み出せた

地域創生に興味があり、地域ゼミで「商店街の活性化」をテーマに探究を進めてきました。僕らのグループは、地元のパン屋さんとコラボレーションして限定商品を開発し、商店街のイベントで販売する…という企画を立案。高校生がこれまでやっていないのか、パン屋さんには断られないかと最初は不安でしたが、地域ゼミの担当だった徳田先生が、「いいんじゃない? やってみたら?」と背中を押してくれて、思い切って依頼に行くことができました。パン屋さんは喜んで協力してくださり、限定商品もあつという間に売り切れて。これまではアイデアを考えるのは好きでもそこで終わっていたのですが、思い切って一歩踏み出してみたことで自信がつき、また次もチャレンジしてみようという気持ちも湧いてきました。

その後、地域の高齢者の方とお話をするなかで、「スマホの使い方がわからない」「若者ともっと交流がしたい」という声を聞いたことから、3年次の夏休みに、高齢者の方にスマホの使い方を教えながら交流するイベントを企画・運営しました。公民館で開催したところ、「(公民館は)遠いから行くのが大変」という声があり、近隣の空き家をイベントスペースとして活用できないかというアイデアが浮かびました。こうして僕のマイテーマは、「空き家を活用して地域住民の交流が盛んな街をつくる」とより具体的に、このテーマをさらに深めたいと、北九州市立大学地域創生学群に進学することを決めました。



私立 長崎南山中学・高等学校
https://www.n-nanzan.ed.jp



長崎南山高等学校3年生 K・Sさん